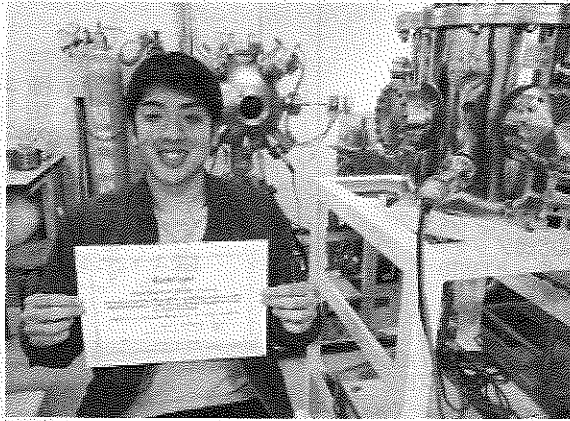


日刊大牟田

2017年4月19日(水) 3面

国際学会で高評価

工場排水の浄化研究 有明高専専攻科の竹本さん



有明高専専攻科二年生の竹永拓海さん(二二)が三月に北九州市で開かれた日本の産業応用工学会の国際学会「ICIAE2017」で、ベストスチューデントパーアワードを受賞した。竹永さんは「今年度も国際学会で表

彰されるように研究を頑張ります」と話した。竹永さんは原武嗣准教授の研究で、ダイヤモンド電極を使った工場排水の浄化について従来分解が難しかった有害物質「パラニトロフェノール」が分解できることを証明した。

国際学会には日本をはじめ中国、台湾、フランス、ロシアなど計十か国から大学・高専教職員、大学院生、大学生、高専学生が参加。竹永さんの論文など七十件の発表があったという。学生が受賞したのは五

件。うち高専学生の受賞は竹永さんのみだったという。一年前から発表に向け準備を進めていました。英語で発表するので緊張しました。材料の研究は実験が多く、失敗もあるけど、楽しいですね。将来は技術者として活躍できるように、今後も研究を深めていきます」と竹永さん。